

# 河川基金助成事業

## 「博学連携で考える河川文化の探究授業研究」 報告書

助成番号：2023 - 7211 - 002

神奈川県私立逗子開成中学校・高等学校

学校長 小和田 亜土

2023 年度

助成番号	助成事業名		学校名			
2023-7211-002	博学連携で考える河川文化の探究授業研究		逗子開成中学校・高等学校			
所在地	神奈川県逗子市		対象河川名	荒川、田越川		
対象学年	中2～高1		主たる教科	中学歴史、日本史B、総合学習、総合的な探究の時間		
河川教育の目標	河川文化とその背景にある歴史を学ぶことで、 <u>河川と人間の関係性</u> に着目し、自然における人間の存在そのものと向き合い続けることのできる人材を育成する。					
育成したい資質・能力	河川文化探究を通じて学びに向き合い続ける力。様々な情報を得て <u>分析・活用する力</u> 。情報を他者と共有し、 <u>表現・発信する力</u> 。					
<b>学習活動の内容と成果</b>						
<p>・生徒を対象とするフィールドワーク授業を行い、現地から得ることのできる河川の地理的な情報や歴史的な情報について考えることができた。具体的には学校近くの田越川源流探し（自称田越川ブリッジマスターになろう）、埼玉県立川の博物館学芸員の支援を得たひろせ野鳥の駅～行田駅の荒川フィールドワーク（約16km）の二つを実施した。地図、古写真、現在残る景観等からそれぞれ得る知識などを柱に、<u>探究を深めるための情報把握の方法</u>を学んだ。田越川では、景観を写真にとることで、資料化することを学び、逗子市立図書館郷土コーナーにおいて資料の調べ方についても学ぶことができた。また、荒川では、学芸員の方より博物館内での講義を経た上で、周囲の地形の見方、歴史的視点、防災行政などについて、踏査を経ることで<u>探究の手法や視点</u>を学ぶことができた。</p> <p>・神奈川県立歴史博物館では、「かながわの遺跡展 華ひらく律令の世界」において、墨書土器に込められた古代人の信仰と向き合う実践を行った。教科書では扱うことの少ない、河川にケガレを流すという習俗を考えることで、<u>答えのはっきりしない問い</u>と向き合う貴重な機会を得た。古代における<u>河川と祭礼の関係</u>についても学ぶことができた。</p> <p>・学内において、学んだ内容の情報発信について生徒同士で検討し、掲載文を執筆した。成果を残すという点は、生徒の達成感にもつながったと思われる。</p>						
学びの創意工夫点	初対面や異学年で課題に取り組むことが多かった。一斉授業ではなく、興味関心を持つ有志を対象としたため、課題への取り組みも熱心であったのと同時に、学年はあまり関係ない部分で意見をぶつけることができるようグループ課題・ペアワーク課題を工夫した。また、 <u>探究の手法や視点の育成</u> に力点をおき、気づきや発見を参加生徒自身で見つけられるよう工夫した。					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	河川や河川文化そのものを、学問分野を越境する形で考えるきっかけになったと思われる。例えば田越川実践では橋や景観そのものに焦点を絞って、古写真という資料との比較の上で、観察する課題に取り組んだ。その際の対話は多様で、水質や外来生物の亀などに関心を持ち、生徒たち同士で話題にしている場面に接することができた。一つの事象が様々な探究の観点を持っており、それを他者と共有することで、別の気づきにつながっていくことを楽しんでいる生徒が見受けられた。					
<b>支援者等（複数記入可）</b>						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	<u>専門家等</u>
河川管理者	行政機関、 <u>博物館</u> 、資料館等	関係団体（漁協、農協）等		企業	その他	
支援の概要	埼玉県立川の博物館学芸員の方に、博物館内の展示解説・座学にて展示内容の講義を博物館で実施していただき、その内容をふまえた上で、翌日一日かけてひろせ野鳥の森駅から行田駅までの荒川フィールドワーク（約16km）プランの事前準備・博物館内解説・同行協力を得た。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	インターネット上の「note」に「逗子開成 河川探究」というページを作成し、学んだ内容等を公開した。			左に同じ。		
<b>今後の課題・展開</b>						
生徒が得た問いや教員が考えた問いを次の探究内容につなげたい。一方で、生徒たちの <u>多様な問い</u> に答えるためには、 <u>教員自身の学び</u> や外部機関専門家との連携が重要だと思われた。教員自身も生徒ともに <u>探究活動</u> に取り組み、切磋琢磨できるよう河川文化に関する切り口の収集や、研究を続けたい。博物館展示や教科書記述における河川の扱いについては、その扱い方に相違もあるので、 <u>歴史教育における河川文化</u> の、より良い扱い方を検討したい。						

・キーワードとなる言葉にアンダーラインを引いて下さい。

河川教育計画書【単学年】

1.助成事業名	博学連携で考える河川文化の探究授業研究		学校名	逗子開成中学校・高等学校		助成番号	2023-7211-002											
2.河川教育の目標	河川文化とその背景にある歴史を学ぶことで、河川と人間の関係性に着目し、自然における人間の存在そのものと向き合い続けることのできる人材を育成する。																	
3.育成したい資質・能力	河川文化探究を通じて学びに向き合い続ける力。様々な情報を得て分析・活用する力。情報を他者と共有し、表現・発信する力。																	
4.学年／人数	中2～高1／合計15人（有志生徒）（土曜講座という本校ならではの仕組みを利用して実施予定であり、複式学級の位置づけとして申請する。異学年交流による探究学習の可能性を提示したい。）																	
5.単元構想																		
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2							
単元目標	単元名：田越川の歴史を掘り起こそう			単元名：荒川文化を探究しよう			単元名：学んだ内容を世界に発信しよう											
	①身近な地域の現地調査を通じて、調査手法を学び、その成果を自分自身の言葉でまとめることができる。②逗子市立図書館内の資料調査(文献・新聞・写真など)を通じて、調査手法を学び、その成果を自分自身の言葉でまとめることができる。③①・②の調査を他者と協働して、その成果をまとめることができる。			①荒川河口踏査を通じて、地理学的視点を学び、その成果を自分自身の言葉でまとめることができる。②「埼玉県立かわの博物館」見学を通じて、河川文化について学び、他者と協働し、問いに対する答えをまとめることができる。③荒川中流域踏査を通じて、地域ならではの課題を考え、他者と協働して、その内容をまとめることができる。			①左記二つの田越川・荒川それぞれの成果を、自分自身の担当分野にしたがって、ホームページ用の原稿にまとめることができる。②他者と協働し、より良い情報発信のあり方について考え、自分自身の考えを表現することができる。											
	関連教科:総合14時間(歴史、地理、地学含む)			14時間			関連教科:総合21時間(歴史、地理、現代文、古典、地学含む)			21時間		関連教科:総合14時間(情報含む)		14時間				
主な学習活動	年間の動きと各授業の着地点(情報収集と情報発信)について理解する。田越川現地踏査の目的を理解し、調査当日の担当内容(古写真比較・地形比較・建物比較)の話し合いを通じて、調査当日の動きを理解する。			逗子市立図書館内において、司書の方による資料調査に関する解説を聞く。田越川に関する明治時代～昭和時代の新聞記事や絵はがきのコピー等を収集する。また、『逗子市史』等から田越川に関する文献をコピー・収集する。収集物のリストをまとめる。			田越川の下流から上流に向かってフィールドワークを行い、担当箇所に従って現地を得られる情報を収集し、終了後に調査内容をまとめる。河川そのもの、周囲の景観、船舶、橋、史跡、旧家、海拔、地名等に関する記録をとり、写真撮影を行う。収集物のリストをまとめる。			「埼玉県立 川の博物館」合宿に、主体的に参加する。博物館内の展示物や学芸員の解説を通じて、河川文化(鉄砲壱・荷船・船車)、水車小屋の原理、荒川の歴史などについて理解を深める。また、博物館近辺の荒川踏査を行う。地理学・地学の視点を学び、理解する。流域治水のあり方を理解する。調査内容の記録をとり、終了後に自分自身の言葉で			「川の博物館」の学芸員を講師とする講座「荒川の堤防の終わりに見にいこう」に主体的に参加し、地理学・歴史学的な視点を学ぶ。講師解説の記録・写真撮影を行い、事後の情報発信のための資料を記録・収集する。			訪問場所は未定(荒川知水資料館・江戸東京博物館・荒川ふるさと文化館などを検討中)だが、いずれかの博物館等を訪れ、荒川に関する浮世絵、古写真など歴史資料の調査方法について学ぶ。		
	Google siteを利用し、仮題「中高生が発信する河川文化探究」のホームページを作成する。原稿項目や内容について他者と話し合い、より良いホームページ作成を考える。また、各自担当内容について、ホームページ用の原稿を執筆する。適切な資料をもとに、体裁に合った情報を原稿にまとめる。文章や写真アップロードの際の問題点(著作権・肖像権等)について理解する。																	
評価の観点	年間内容説明や田越川調査の話し合いにおいて、主体的に関わることができるか。【学びに向かう力・人間性】(以後【学び】と略する)			司書の資料調査に関する解説を主体的に聞くことができるか。【学び】／自分自身の持つ知識を活用して、諸資料をコピー・収集し、リストにまとめることができるか。【知識・技能】			フィールドワークに主体的に関わることができるか【学び】／情報収集内容・収集リストをまとめることができるか。【知識・技能】【思考力・判断力】			調査合宿に主体的に関わることができるか【学び】／「常設展示」と学芸員解説「現地踏査解説」それぞれのワークシートにまとめることができるか。【知識・技能】【思考力・判断力】			主体的に関わることができるか【学び】／ワークシートにまとめることができるか。【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】			主体的に関わることができるか【学び】／ワークシートにまとめることができるか。【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】		
	サイト作成の話し合いに主体的に関わることができるか【学び】／ホームページ原稿内容について諸資料を吟味し、適切な写真を添付することができるか【学び】【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】																	

河川教育 学習活動報告書【単学年】

1.助成事業名	博学連携で考える河川文化の探究授業研究	学校名	逗子開成中学校・高等学校	助成番号	2023-7211-002
---------	---------------------	-----	--------------	------	---------------

2.実際に行った単元構成（\*土曜講座という逗子開成ならではの仕組みを利用して実施。土曜講座は年度当初に中1～高2までの有志を募り実施する仕組み。複式学級の位置づけとして、異学年交流を前提に行ったため、単元構成は便宜上であることを了解されたい。）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

<p><b>「河川と人間 第一回 田越川源流探し」</b> 6/17「自称 田越川ブリッジマスターをめざそう」</p> <p>①教室にて地図と古写真の読み解き ②逗子市立図書館にて郷土資料コーナーの利用解説 ③フィールドワーク a)古写真と比較可能な景観を写真撮影 b)田越川にかかる橋名の収集と写真撮影 c)地域の方との対話(飲食店+田越川沿い住民の方)</p> <p>関連教科:総合的な探究の時間(地理・歴史等) 合計8時間</p>				<p><b>「河川と人間 第二回 宿泊合宿」</b> 8/18「埼玉県立川の博物館研修」 8/19「荒川フィールドワーク」</p> <p>①埼玉県立川の博物館 a)河川文化に関する展示、スロープ展示「いまでも「洪水」は起きている」見学 b)学芸員の方による室内講義(直前学習) c)学芸員の方による外部展示説明(荒川大模型173) ②荒川フィールドワーク(ひろせ野鳥の森駅～行田駅まで約16km) a)学芸員の方による実地解説 b)各自の関心による気付き</p> <p>関連教科:総合的な探究の時間(地理・歴史・地学等含) 合計15時間</p>				<p><b>河川と人間 第三回 河川を深める</b> 12/2「今までの学びを発信しよう」</p> <p>①昨年度「とりくみ支援」にて実施した「荒川ガチ歩き」、本年実施の二回の取り組みを振り返り、活動をまとめた。 ②参加全生徒のコメントをまとめ、発信する方法を検討。 ③参加生徒の得意分野をふまえて長期休みに報告文まとめ。</p> <p>関連教科:総合的な探究の時間(情報含) 合計3時間(+学外3時間)</p>				<p><b>河川と人間 関連講座「そうだ博物館へ行こう」</b> 3/2「神奈川県立歴史博物館で墨書土器から河川文化を考える」</p> <p>急遽設定できた関連講座。左記の三回活動とは参加者を異にするが、新たな活動の糸口として提示しておく。博物館展示の墨書土器より河川にケガレを流す文化習俗を考察。</p> <p>関連教科:歴史 5時間</p>																								
学習活動の結果	<p><b>【教室にて】</b> ・現代の地図を活用し、田越川や周囲の地形を確認できた。 ・古写真(逗子フォト公開写真等)を配布し、現地にて見るべきポイントを確認することができた。また、現地にて確認したい点等を各自で考えることができた。</p> <p><b>【逗子市立図書館にて】</b> ・フィールドワークの途中に立ち寄り、郷土資料コーナーの利用と関連資料についてレクチャーした。特に、古写真掲載の資料や新聞資料の活用の可能性(田越川増水記事など)を学ぶことができた。</p>				<p><b>【田越川フィールドワーク】</b> ・古写真と現在の景観を比較しながら、共通点と相違点をそれぞれ探りながら各自で記録を残すことができた。 ・各自が、記録のための写真撮影を行うことができた。 ・史跡・石碑・石造物等についても記録し、解説文を確認することができた。 ・外来生物や水質調査、学年行事の清掃活動参加時に気付いた事等の情報を参加者同士で共有できた。 ・拡散する関心を「橋」に着目させ、完成年等を記録することができた。 ・橋名の由来等を考える視点を得ることができた。</p> 				<p><b>【地域や河川への関心】</b> ・田越川沿いの住民の方の声をかけていただき、偶然ながら対話を行うことができた。昔の景観や近年行われた護岸工事・市役所作成の散策マップの解説等聞き、各自の関心で質問できた。 ・飲食店を利用することで、逗子市内の観光業等への関心を広げることができた。 ・海から川をのぼるSUP利用者と遭遇し、地域観光への可能性を学ぶことができた。 ・河口から源流地点の見通しがつくまで歩くことで、田越川への親しみを感じることができた。 ・河口から源流までの全ての橋を記録することで達成</p> 				<p><b>【事前学習】</b> ・『人がつくった荒川』を課題図書とし、感想をまとめることができた。 【川の博物館展示】 ・河川文化について各自で学んだ。スロープ展示では、台風による実際の被害を写真等で確認できた。 【学芸員による講義】 ・荒川や流域治水の基本について学ぶことができた。</p> 				<p><b>【フィールドワーク】</b> ・ひろせ野鳥の森駅～行田駅までの一日踏査を行い、達成感を得ることができた。 ・陸間、河川周辺の土地利用、熊谷堤踏切、熊谷桜堤、景観の見方、カスリーン台風決壊地点、集団移転等を実地で学ぶことができた。</p> 				<p><b>【取り組み課題】</b> ・博物館内にて以下の三つの当日課題に取り組むことができた。 ①学びになった展示紹介 ②学芸員解説において学んだこと10個紹介 ③調べてみたいと思った「河川文化」について記述 ・フィールドワーク時の課題関心をもった知識3つ紹介 以上の点について、google formsを通じて取り組んだ。</p>				<p><b>【活動内容】</b> ・ブレインストーミングで各活動を振り返ることができた。 ・成果発信サイトの検討を行うことができた。 ・実名掲載有無の検討を行うことができた。 ・ロゴのデザインを検討することができた。 以上をふまえ、各自の得意分野で役割分担を行うことができた。  後日、「note」上に「逗子開成 河川探究」というブログページを制作・公開した。</p>				<p><b>【博物館内活動①】</b> ・展示室内にて、「華ひらく律令の世界」展示解説を聞くことができた。 ・同展示に関する当日課題に取り組んだ。 ・常設展示において、博物館展示を楽しむ視点について聞くことができた。 ・墨書土器を観察できた。 ・展示担当者の解説を聞き、メモをとった。具体的にはケガレを扱う儀礼によって川に流された木製人形などについて解説をうかがった。また、現代に続く、儀礼とのつながりを考えること</p> 				<p><b>【博物館内活動②】</b> ・三人一組で、人面墨書土器の制作された背景や人面墨書を書いた人物などについて想像し、話し合っ ・話し合いを通じて、考えを一つにまとめ、発表することができた。 </p>			

3.得られた成果  
 四点を挙げたい。①「河川文化」を軸に、「探究の手法」や「探究の視点」を学ぶ機会とした。具体的には、第一回田越川を歩くことで、「地図の見方」「古写真の活用の仕方」を学んだ。第二回の合宿では、博物館展示の見方やフィールドワークの方法を学んだ。関連講座では、考古遺物を見る視点を学んだ。②③の点は、逗子市立図書館・埼玉県立川の博物館・神奈川県立博物館といった外部機関との連携のうえに実施できた。具体的には、逗子市立図書館では、司書教諭の資格も持つ担当者自身が郷土資料がある場所や調べ方のアドバイスをを行った。埼玉県立川の博物館では、学芸員の方の力を借り、館内の展示物を鑑賞する視点を、2日目のフィールドワークでは現地を歴史的・地理的に考える視点を学んだ。神奈川県立博物館では、埋蔵文化財を担当する考古学の専門家の力を借りて考古遺物を見る視点を学んだ。④地域の課題を考える機会を得た。具体的には、第一回では、地域の飲食店等も利用することで地域観光のあり方や河川沿い住民の方との交流により河川整備の現状を、第二回では、カスリーン台風以後の集落の集団移転の問題などを、それぞれ考える機会を得た。⑤「note」「逗子開成 河川探究」をブログページとしてインターネット上に作成し公開することで、「取り組み支援」での授業実践で体験したことも含め、二年間の体験を成果としてまとめることができた。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果  
 第一回田越川では、河口部から源流までを踏破することで、学校が所在する逗子市内の河川のスケールを意識することができた。と同時に、古写真と現在の景観の比較を通じて、田越川の関東大震災による隆起や、田越川には船が日常的に存在しており、船舶が生活の傍に常にあったことを参加生徒自身が確認できた。第二回埼玉県立川の博物館では、鉄砲堰や舟車など、身近にない河川文化の存在を学ぶことができた。その上で、荒川を一目かけて歩くことで、河川の地形をみる視点、防災対策、そして生活の中にあつた河川文化そのものを意識することにつながった。また、カスリーン台風後の集落移転や決壊地点など、水害の恐ろしさを学ぶとともに、歴史的に河川の水量増と常に向き合ってきた住民たちの力強さを考えることができた。集落移転の問題など、正負の面それぞれを考えるきっかけを得ることができた。自然と住民、自治体・国等の関係を意識し、立場の違いを認識できたことは、自然に対応する難しさを学ぶと同時に、河川を通して今後の社会との接点を意識するきっかけを得ることができた。第三回の成果まとめと発信方法を検討する際には、改めて身近にある河川が話題になる一方で、身近にありつつも体感することのない河川文化の現状との落差を考えさせることができた。また、筆者の関心として、どうしても歴史的・地理的な視点に偏っていたが、生徒たちは、河川の外来生物や自身が関わったことある水質調査、中2時に学年全体で行っている田越川清掃活動などでの体験を結びつけて話題にすることが多かった。今回の河川文化に関する活動を通じて、参加者の河川に関する過去の体験を呼び起こし、関心の糸口を得たり、隣接諸分野の学びにつながることを意識させることができた。

### 【全体について】

教室にて基礎知識や資料を確認し、田越川沿いをひたすら歩いた。途中、逗子市立図書館に立ち寄り、郷土資料の所在や調べ方をレクチャーすることで探究の基本になる調べ方を示した。あわせて、地域の方との出会いを通じて、河川を通じた地域学習となることを意識した。また、全体を通じて「自称 田越川ブリッジマスターになろう！」と語りかけ、河川沿いの橋を写真で全網羅することを目指した。源流地点を目指したことも参加者にとっては忘れ得ぬ体験になった。以下、7つの点にしぼって全行程を紹介しておく。

### 【1】教室にて】

教室では、自己紹介と簡単な事前アンケートに記入してもらった。田越川について知っていることについては、「橋が架かっている」・「川そのものは結構短そう」など、きわめて素朴なものばかりであった。学校に通学する際には「東郷橋」という「橋」を通して必ず登校しており、「橋が架かっている」というのは至極当たり前のコメントだが、「知っていること」を問うてみると、意外に書けないことが明らかになった。

そういった現状をふまえた上で、知識の確認をした。地図上でどのあたりを歩くのか示し、また、ジャパンナレッジを活用して『日本歴史地名大系 神奈川県』の「田越川」を紹介した。また、田越川の景観や橋等が写り込んだ古写真も配布した。写真の典拠は、「逗子フォト」中の写真と、『目で見る鎌倉・逗子の100年 写真が語る激動のふるさと一世紀』（郷土出版社 1987）・『鎌倉・逗子・葉山の昭和：写真アルバム』（いき出版 2014）から引用した写真 22 枚である。上記のように、基礎知識や資料をみる視点を示した上で、以下の目的を示した。

- ①「自称 田越川ブリッジマスター」になろう
- ②逗子フォト掲載写真と現在の風景を比較しよう → 現在の写真を撮影しグーグルフォトへ
- ③古地図と現地図を比較しよう → 気付いたことは記録する
- ④逗子市内の食について考えよう → 観光について少し考えてみよう

### 【2】河口部にて】

河口部を過去の写真景観と比較した。ここでは特に、「昭和 10 年 田越川とヨット」と題名のつく写真はがきと景観を比較したことを紹介しておく。現地に行くとならかなことであるが、同写真中に写り込む「富士山」の描写が、改竄されていることを確認できた。富士山の場所がずれた形で描き込まれていることを確認できた。

### 【3】図書館にて】

2階の郷土資料コーナーを紹介し、『逗子市史』等、逗子市地域について調べる場合の基本文献のありかを紹介した。また、学校史の観点から、新聞資料の読み込みが新たな研究成果につながることを具体的に紹介した。

### 【4】河川沿いにて】

生徒と注目した視点を一部紹介しておく。

- ・電柱にあり写真で収拾した標高表示を追ってみると 2.3m→3.4m→4.7m→9.2m→8.7m→32.4m→34.5m といったデータを収集できた。海岸部から駅までの間に、標高が下がる地点を確認できた。
- ・流量を監視するカメラの存在を知った。
- ・「氾濫危険水位」「避難判断水位」「氾濫注意水位」「水防団待機水位」の四つの基準があることを知った。
- ・外来種と思われる亀が多くいた（少数だが在来種も）。ヘビなどをみつける生徒もいた。
- ・SUPで海から川をのぼる方がいることをはじめて知った。
- ・学年行事の清掃作業を思い出し、河川を歩いた時のことを思い出した。

- ・住民の方より護岸工事の状況や市役所の紹介する観光ルートとその現状などについて直接話をうかがい、地域の観光を考えるきっかけを得た。
- ・「愛観川橋りょう」では、電車の真下を歩く歩行者専用の橋を歩くことができた。
- ・写真を確認する際には80・90年代まであった無断停泊のレジャーボートが一切なくなっていることに気付いた。

#### 【5】 飲食店にて】

中華料理屋で食事をさせていただいた。小人数だから実現できた機会である。さまざまな地域から通う生徒がほとんどの私学として、学校所在の飲食店を何らかの機会に利用することはとても大事な機会になると思われた。食を通じて地域の観光や実態そのものを考えさせる効果があったと捉えている。

#### 【6】 田越川ブリッジマスター】

一つ一つ確認し、写真に残すことで達成感を得ることができた。渚橋、富士見橋、田越橋、仲町橋、清水橋、逗子橋、下田橋、鳥川橋、向原橋、中原橋、東橋、川端橋、蓮沼橋、東逗子橋、桐の木橋、神武寺橋、台橋、六反目橋、武道橋、法勝寺橋を撮影した。

#### 【7】 源流を求めて】

普段は入ることのないような場所にも、地域の方の助力を得ながら歩くことができた。教員よりも生徒の方が乗り気で、企業の方のご理解もいただきながら実施できた。電気のない真っ暗な、有料道路下通路を歩くなど、貴重な経験を得ることができた。参加生徒にとっては忘れ難い体験になったことと思われる。

#### 【事後アンケート】

事後アンケートでは、田越川が三つの支流で成り立っており、他の支流も歩いてみたいとの意見やその支流の橋や密度等を比較してみたい、といった前向きなコメントが多かった。また、途中に出会った生物についての関心を記す生徒もいた。

### 1 日目「埼玉県立川の博物館研修」

埼玉県立川の博物館学芸員羽田武朗氏より解説（座学）90分 + 屋外の荒川大模型 173 解説 60分を実施していただいた。あわせて館内の展示自由見学（河川文化展示、スロープ展示「いまでも「洪水」は起きている」展）を行った。常設展では、鉄砲堰や舟車などの身近にない河川文化を学ぶことができた。参加者全員に以下のような課題に取り組ませた。

事前課題：簡単な河川とのつながりをたずねるアンケート

長谷川敦『人がつくった荒川』（旬報社 2022）感想 \*事前課題はグーグルフォームにて回収

- 1 日目課題 Q1) 埼玉県立川の博物館を見学し、来て良かった、知ることができて良かった事柄や展示を5つ、選んだ理由も含めて記す。
- Q2) 学芸員の先生の解説を聞き、関心を持った点をその理由も含めて10点以上記す。
- Q3) 今後も引き続き学び続けてみたい、調べてみたいと思った「河川文化」について、その理由もふくめて記す。

2 日目「久下～荒川の瀬替えと堤防決壊地点を歩く」（講師羽田武朗氏）秩父鉄道「ひろせ野鳥の森駅」から JR 高崎線行田駅西口まで終日歩いた。主な解説地点や内容は次の通りである。

大麻生陸閘、荒川の広大な遊水池、鉄道と荒川について、石上寺・北条堤、星溪園、熊谷桜堤、万平公園に残る荒川の旧堤、元荒川の源流、一級河川「元荒川」の起点、旧久下橋、旧新川村、整然と並ぶ家について、旧中山道の一里塚、荒川の瀬替え、カスリーン台風時の荒川決壊地点、久下地区高規格堤防、（希望者のみ 瀬替え前の荒川本流について）

炎天下のなか、コンビニでの水分補給、休息場所等、羽田先生には多大な配慮をいただいた上での実施となった。以下の通りの課題をグーグルフォームにて回収した。

- 2 日目課題 Q1) 解説ポイントのうち、印象的な場所について、選んだ理由と学んだ知識を3つまとめる。
- Q2) フィールドワークを通じて学んだことや感想をまとめる。

### 1 日目課題について主なものを紹介

Q1) 来て良かった、知ることができて良かった事柄や展示（今回は事柄のみ報告し、理由は割愛）

特別展動物のうんち展×12、鉄砲堰×11、屋外の大水車×7、水車×5、2019 年台風による荒川増水と県立川の博物館敷地の浸水状況×3、荒川大模型 173×3、舟車×3、水桶×2、砂利採取、開平橋、荒川とは？展示×2、荒川の魚×2、荒川のキノコ、荒川の生態系について、船による下肥の運搬、荷船、弱い熱帯低気圧が大雨を長時間降らせたことがあるという展示、昔の漁の道具、川と人間の生活の関係、スロープ展示（災害）、



## ・1 堤防の話・地形の話(大麻生陸閘)

フィールドワークの始めの地点にあった、江戸時代に作られた用水路である大里用水についての解説をいただきました。用水路に流れていた水はフィールドワークの後半に見た元荒川の水と比べ、かなり濁っていました。このことから、本流である荒川も濁っていることを示しており、また地理的な要因を知ることができました。これは荒川によって運搬されてきた土砂が堆積したことで造られた扇状地の特徴が関わっています。水捌けがよく、米作りには元々適していない土壌でありましたが、何とか稲作を行うため、江戸時代の人々が半ば無理矢理用水路を沢山設けたことが分かります。用水路に目を向けることで当時の人々の生活や時代背景、考えていたことが垣間見えるのは、非常に興味深い内容であったため、選択しました。また、今まで歴史や地理、地学などの座学で得た知識を活用し、その土地を読み解くことができたということも印象的でした。

・最初見た時に、浸水などの被害を床下浸水までに抑える為かと思っていたが、昔の川石採集という利益を求めて開かれた陸閘と言う点。大洪水時の陸閘の閉鎖は周辺市民の連携によって成り立っている点。荒川の陸閘はこれしかない点

## ・1 堤防の話・地形の話 (大麻生陸閘)

理由：荒川の中で唯一の堤防がないところだと聞いて、それほどここは重要なところなんだな、と思ったから。

知識：この場所は荒川の中で唯一堤防がないところである。／ここに堤防がない理由は、埼玉県の県事業として荒川の川の石を売るためにこの場所を川の石を運ぶための荒川内と堤防の外側を結ぶ大事な場所だった。／この堤防は洪水時に木材を使って臨時に堤防を作る。また、木は水の圧力に強い為、ある程度の強度は持っている。

## ・4 石上寺・北条堤

昔の堤防がいまだに地形や地名として残っており、それを実感出来て良かった。熊谷堤が昔は別の場所にあったということに驚いた。

## ・5 星溪園

選んだ理由：荒川が昔氾濫したときにどれだけ遠いところまで水を運んだかよく分かったから選択。

学んだ知識：星溪園の中にある池は荒川が氾濫したときに水が引ききらなかったためにできた。

(荒川からの距離は体感でかなり遠く感じた)

## ・7 万平公園に残る荒川の旧堤

現在の堤防と昔の堤防でここまでの差があるとは思っていなかったから。

昔の堤防は主に熊谷駅付近にあった宿場を守るために作られたものだったので、現在の堤防よりも熊谷駅に近いところにあったが、現在の堤防は改良を重ね昔のものよりも高く川に近いところに作られている。よって今も川幅日本一の川と言われている荒川だが、昔のほうが断然川幅が広がったのである。

## ・8 元荒川の水源

奥深くの地下水を組み上げてその水を元荒川に流していた。元々は荒川を瀬替えした時は地下水が水源になっていたが荒川の砂利を取りすぎたため地下脈が壊れてしまい水源が失われた。いまはなぜポンプで吸い上げてまで元荒川に水を流しているかという、埼玉にしか生息していない魚、ムサシトミヨを守るためである。

## ・8 元荒川の水源

選んだ理由：元荒川の（法律上ではなく、実際の）始まりが自分の家の裏にもあるような乾いた用水路だったことに非常に驚いたから。とくに前日の講義において「現地で見てください」と詳細は明かされていなかったのになおさら驚いた。

学んだ知識：上にも書いたように元荒川の始まりは乾いた用水路だったこと。

## ・8 旧荒川から水が出てくる理由

荒川では、伊奈忠治が荒川の道路を変え、元の路を旧荒川とした。こと荒川は、地下水によって路を変えた後も流れ続けていたが、人間がセメントの材料となる石を大量に採取した結果、水脈が壊れ地下水が旧荒川に流れず、枯れて

しまった。そこで地域の人々が、もっと深い地下水を汲み上げ、旧荒川を復活させたのだ。地域の人々の想いが伝わってくるし、川を綺麗にして絶滅危惧種のムサシトミヨも一部ではあるが復活させたことを知って、とても感動した。

#### ・9 元荒川の源流

(理由)元荒川の源流が雨や雪でないと流れないのに、その後の川は水が出ていたところ。

(知識)元荒川の源流は川石の過剰採集による地下水の枯渇により、常時流れる物ではなく雨や雪の時のみ、流れる事。

#### ・9 元荒川の源流

元荒川の源流には水が一滴もなくて驚いた。もしかすると意外とただの水路と思っていたところも川の源流なのかもしれないと感じた。

#### ・15 堤防沿いにたつ整然とした家

(理由)堤防の作成や、荒川の洪水による浸水等により退去をお願いされたひと達が住んでいる所が一目みて分かることころの為。

(知識)現在河川敷にて住んでいる人は殆ど居ないが、それは川の計画に乗って仕方のない犠牲になってしまっていた事。

#### ・18 カスリーン台風時の堤防決壊地点

江戸時代以降、荒川の堤防が決壊したことがないと思っていた。他の川も決壊することがあると感じた。

#### ・18 カスリーン台風時の堤防決壊地点

理由：荒川の堤防の今の課題？が分かったから選択。

知識：カスリーン台風で堤防が決壊したあともともと荒川が流れていたルートに溢れた水が流れていったことと、カスリーン台風とは直接関係はないが荒川の堤防の高さや太さが地点によって違うことと、その堤防の高さが東京方面のほうが若干高いこと。

#### ・19 堤防の中に田んぼ

堤防の中を見ると、時折田んぼが見えてくる。これは、つい5.60年ほど前まで人間が内側で暮らしていることを示している。堤防の中はとても肥沃で、堤防のうちと外では味が大きく変わるらしい。しかし、大正時代の荒川の改修やその後のカスリーン台風で人が全て出ていってしまったのだ。家だけがなくなり、電線や田んぼが昔のまま残されているのをみて、少し寂しく感じた。

## Q2) フィールドワーク感想 (文面ママ)

・今回のフィールドワークでは、「その土地に行ってみて文化を知る」ということの面白さに気付かされたと思います。普段の自分なら何とも思わないような地形や建物、さらに看板までも読み解くことでその土地に生きていた人々の想いを感じ取ることが出来ました。私はあまり地理や地学に興味は持っていませんでしたが、今回のフィールドワークを通して学ぶことの大切さも身をもって実感しました。まだまだこの合宿で荒川について理解出来たことはほんの一部分であると思うので、より知識を深めていきたいです。

・様々な堤防の跡などが踏切や寺の名前、石碑などに残されており、寛保二年の大洪水やカスリーン台風の時に被った被害を忘れないよう、また同じ被害をこうむらないよう徹底してる事がとても興味深い物であった。

・川についてたくさん事を学びました。しかし、とても暑かったので次は春にやってほしいです。

・今回のガチ歩きを通して、荒川が多くの人の生活、文化の根底にあるのだな、驚いた。これを機に、荒川についてもっと調べてみようと思った。

・今回はとても暑い中歩いたので、今までのガチ歩きの中で一番きつかったが、先生の荒川の解説はどれも興味深いものばかりだったし面白かった。今回の土曜講座で、荒川に限らず日本の色々な川には人と関わってきた歴史があり、またその川に支えられてきたり川によって人に被害が出たりしてきた中で人々は昔から自分たちの暮らしを豊かにするために川と関わってきたんだな、と思った。次の荒川ガチ歩きでは荒川の源流に行きたい。

・荒川のこといろいろな所に繋がっていて漫画の伏線みたいに面白かったです。特に荒川の砂利を取ったことによ

って元荒川の水源がなくなってしまったというのが意外でした。

・僕の祖父母の家が荒川が通っている埼玉県深谷市にあり、祖父母から荒川についての話を何回か聞いたことがあったのですが、今回の講座を受けて初めて知ったことも多く訪れた埼玉県立川の博物館が洪水の被害を受けたときの話を聞き、祖父母の家が被害を受けなかったのはただの偶然で被害にあっていた可能性も十分にあったということも知りました。神奈川県に住んでいる我々には荒川についてあまり関わりはないかもしれないけれど戦前からの長い歴史を持つ荒川についてぜひ学校の皆にも調べてみてほしいと思いました。

・河川敷の中の電柱（人が住んでいたあと）だったり、何気なく高くなっている場所（堤防の名残）があったり、川の石を運び出すトロッコの跡があったりなど普段の生活では全く気にしないであろうことに人々が川をより良くするための努力の痕跡が残っていて、そのすべてが繋がって今の荒川があると分かって感動した。それとともに昔の荒川の痕跡と今の荒川の流路の違いを実際に歩いて体感できたのは非常に勉強になった。やはり地図上で見ることより、実際に歩いたほうが景色の違いや細かい地形の違いなどもよく分かるので、今度から近所の川にも積極的に行ってみたい。

助成番号	助成事業名	学校名
2023-7211-002	博学連携で考える河川文化の探求授業研究	逗子開成中学校・高等学校



学習活動名：「田越川の歴史を掘り起こす  
～田越川ブリッジマスターになろう～」

日付：2023年6月17日

見られた子どもの姿：

- ・積極的に橋の名称を写真やメモに記録する姿がみられた。
- ・配布レジュメ掲載の古写真と現地の景観を比較し、写真撮影により記録に残す姿がみられた。
- ・配布レジュメ掲載の地図をよく確認していた。
- ・途中の飲食店利用や地域の方との対話により地域の飲食業や地域振興について考える機会を得た。
- ・川をさかのぼるSUPを楽しむ方に出会い、海と河川がつながるレジャーについて考えさせられていた。

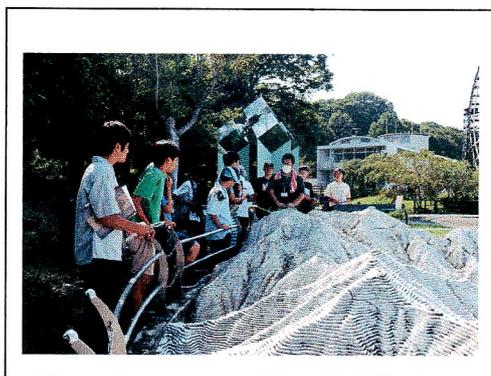


学習活動名：「荒川合宿1日目（埼玉県立川の博物館研修）」

日付：2023年8月18日（金）

見られた子どもの姿：

- ・博物館内のスロープ展示「カスリーン台風以後の荒川の増水」や「鉄砲堰と筏流し」「船車」等展示を熱心に見学していた。
- ・講義「フィールドワーク直前学習」を熱心に聴講し発問した。
- ・博物館外「荒川大模型」解説付きで見学した。



学習活動名：「荒川合宿2日目

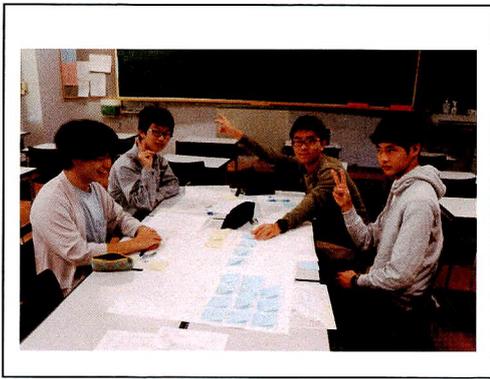
（荒川フィールドワーク（ひろせ野鳥の森駅～行田駅）」

日付：2023年8月19日（土）

見られた子どもの姿：

- ・炎天下のもとであったが、水分補給を十分に行いながら、ひろせ野鳥の森駅周辺～行田駅周辺までの荒川フィールドワークに熱心に参加した。
- ・学芸員の方の解説に耳を傾け、積極的に質問を行っていた。
- ・カスリーン台風後に、集団で移転した村の例など、現地を歩くことで疑問点などを得ることができた。





学習活動名：「河川を深める／今までの学びを発信しよう」

日付：2024年12月2日（土）

見られた子どもの姿：

- ・今までの取り組みを振り返った。
- ・模造紙に8月の荒川フィールドワーク内容を書き込み、まとめを行った。
- ・各自の分担を決め、文章をまとめた。
- ・情報発信について話し合い、「note」の活用を決め、人名表記や内容についてのルールを決定した。
- ・後日、「note」「逗子開成 河川探究」のページを作成・公開した。



学習活動名：「神奈川県立歴史博物館 かながわの遺跡展  
「華ひらく律令の世界」見学」

日付：2024年3月2日（土）

見られた子どもの姿：

- ・学芸員の方の講義、館内での展示解説に耳を傾け、メモを熱心にとった。
- ・初対面の生徒も多くいたが、グループ課題「墨書土器を通じて、河川においてケガレを流す習俗を考える」において、限られた時間のなかで、各自の意見を述べ、話し合い、一つの意見にまとめた。
- ・発表活動もおこない、他者の意見を評価した。



助成番号	助成事業名	学校名
2023-7211-002	博学連携で考える河川文化の探求授業研究	逗子開成中学校・高等学校

主な実施箇所

田越川、荒川

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。

※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。

(縮尺は1/50万～1/100万程度)

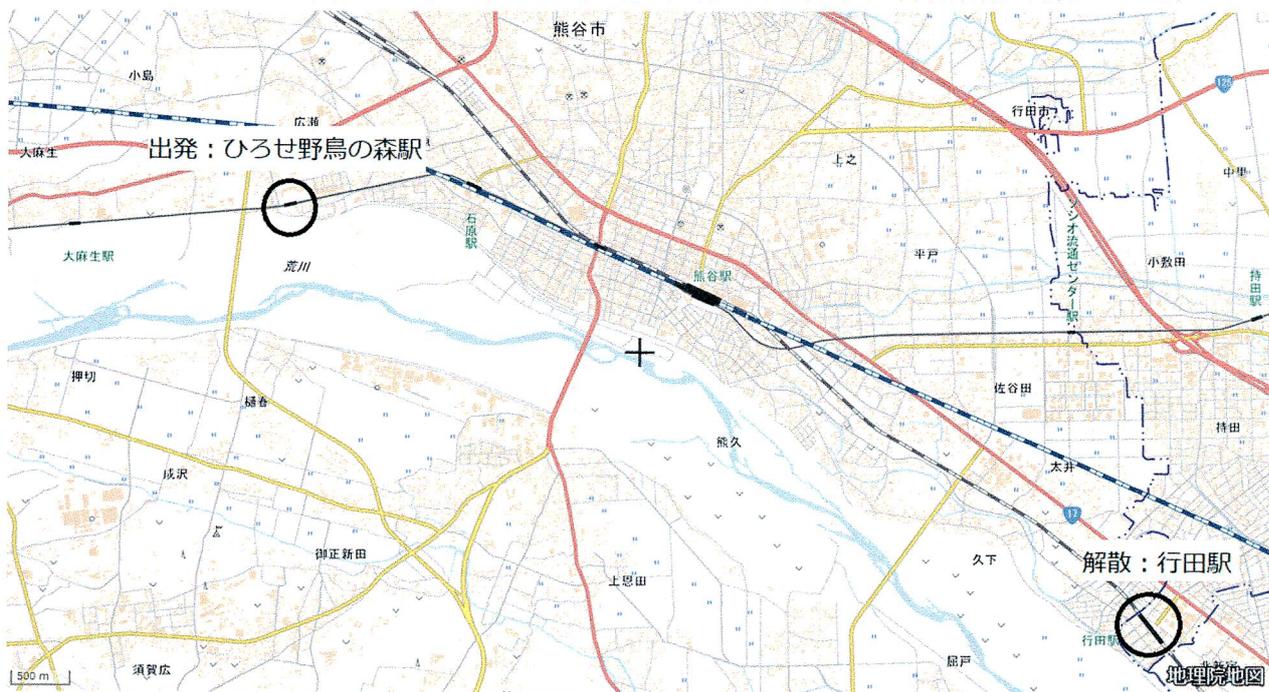
※活動場所が「子どもの水辺」、「水辺の楽校」に指定されている場合には、指定場所と名称を記載してください。

6月17日「田越川河口から源流まで歩く」

地図表示



8月18日「久下～荒川の瀬替えと堤防決壊地点を歩く」(内容は埼玉県立川の博物館羽田武朗氏による)



助成事業の主な実施箇所